



交流から得た気づきと学び

明治大学情報コミュニケーション学部2年

安田早織

9月2日から12日まで約10日間、国際交流のプログラムの一環としてシーナカリンウィロート大学で学ばせていただきました。今回の研修で印象に残っていることは、日本語学科3年生との意見交換会です。実際にディベートおよびプレゼンテーションをすることにより、タイと日本の違いと共通点が明確にわかり、日本人であることを再確認させられるように思われました。

例えば、どちらの国にも礼儀正しさが特徴としてあると感じたとき、少し広い視野で日本を見ることができました。他にも、文化、伝統、宗教、国民性、美意識といった様々な切り口からタイを理解することで、同時に日本について考えるきっかけとなりました。特に日本は「恥の文化」を持っていると言われます。タイの学生は楽しい時はダンスをするような陽気な人ばかりでした。



その中、やはり日本人として恥ずかしさが抜け切れてない自分に気づきました。悪い意味での日本人らしさも見出すことができたので、タイの人の気質は私にとって学ぶべきところがあったのではないのでしょうか。このように、身近に比較して見ることができたのも、交流の機会を設けていただいたからこそだと考えております。様々な方々の協力により、非常に充実した研修となりました。ありがとうございました。